

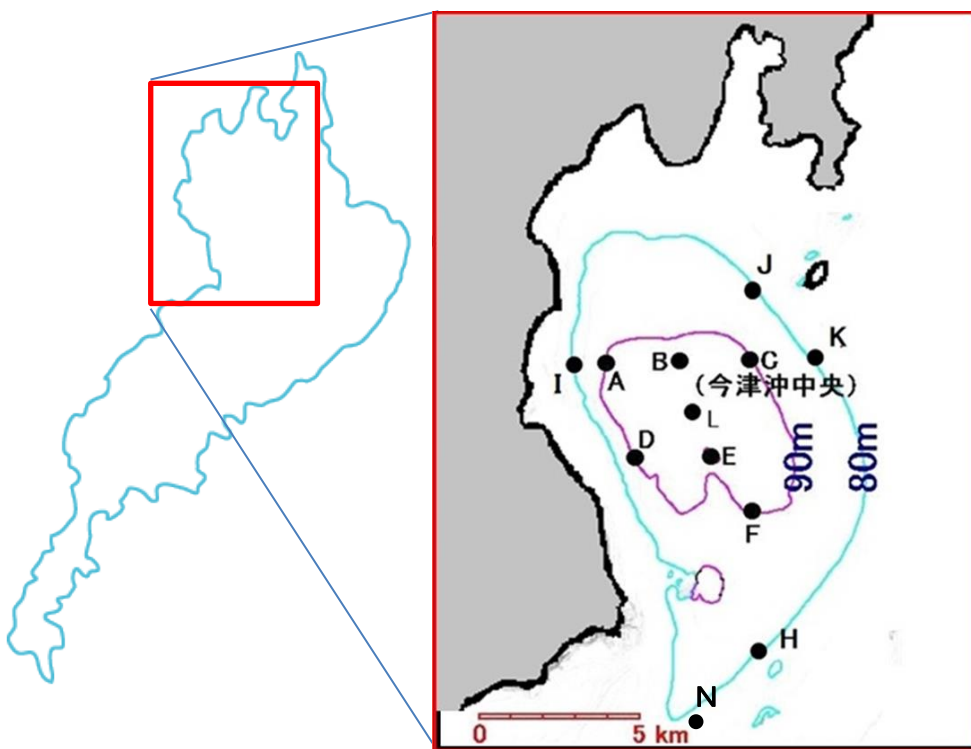
北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。

滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)
およびその周囲の調査地点

C、F、L点: 定期調査

A、B、C、D、E、F、L: 詳細調査

K、H、I、J、N(水深80m): 詳細調査

湖底直上1mを調査

※底層DOの状況に応じて、地点数等を変更することがあります。

令和8年度の北湖底層DO調査結果（速報）

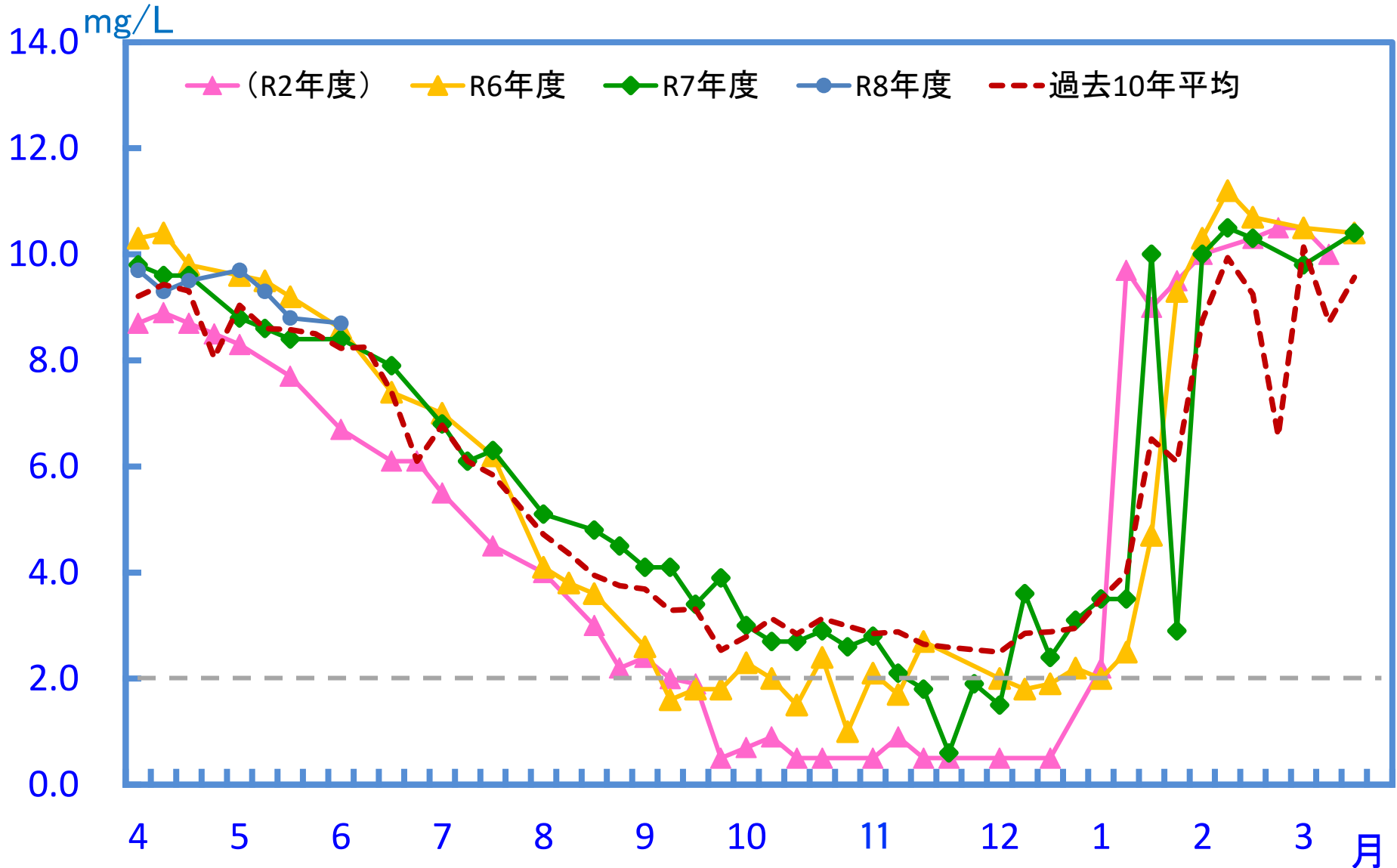
単位：mg/L

調査日 調査地点	4月			5月			6月
	4/6	4/20	4/28	5/11	5/18	5/25	6/8
A			9.4				
B			9.8				
C(今津沖中央)	9.7	9.3	9.5	9.7	9.3	8.8	8.7
D			9.5				
E			9.4				
F	10.2	9.3	9.4	9.7		9.2	8.7
L(第一湖盆中央)	9.4	9.4	9.4	9.6		8.8	8.3

注1：表中の黄色部分は貧酸素状態（2.0mg/L未満）、オレンジ部分は無酸素状態（0.5mg/L未満）の結果を示します。

注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

C点における底層DOの経月変動

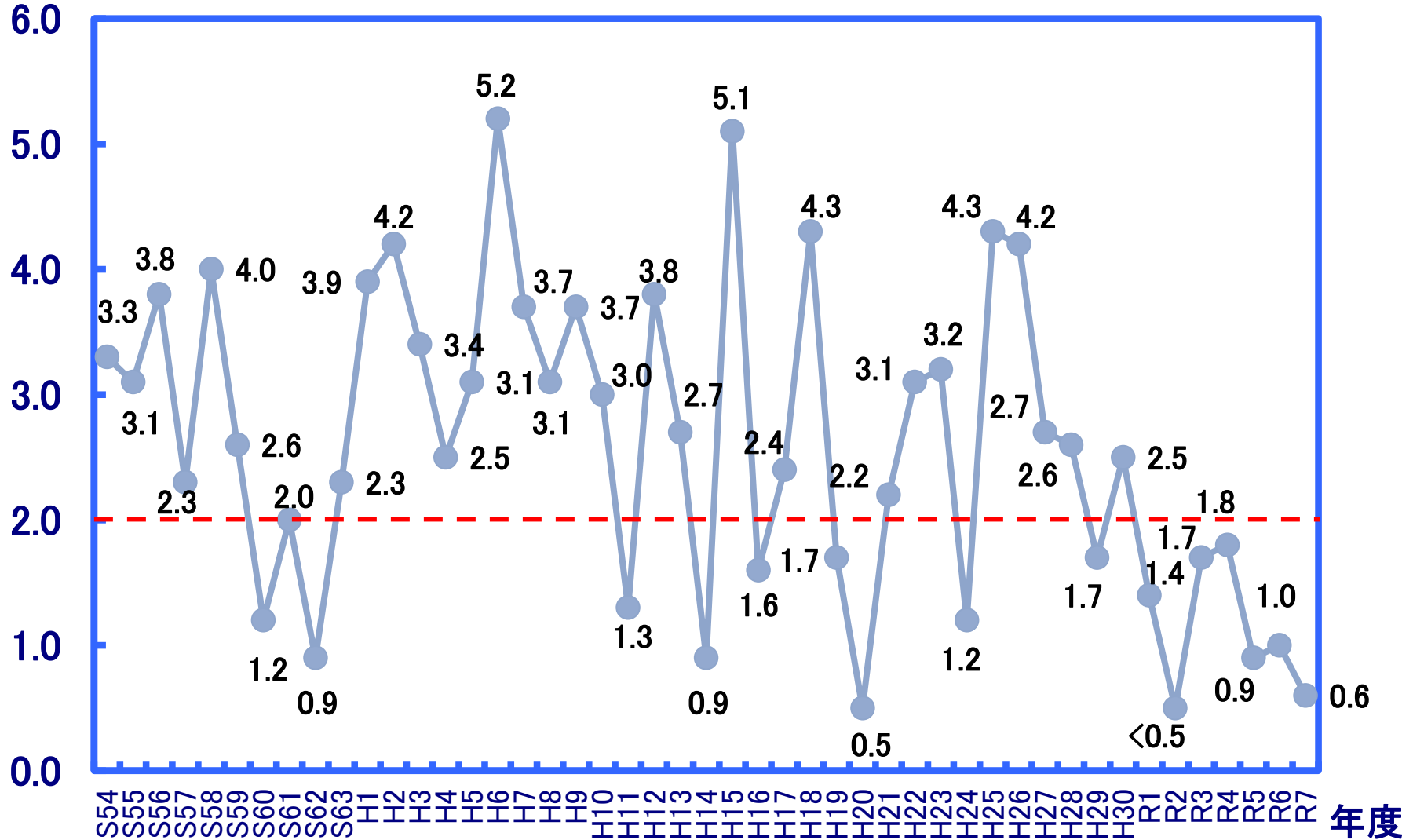


注：令和2年度は、前年度の冬に全層循環が未完了であった影響により、例年よりも底層DOが低下した特異な年であるため記載しています。

データ：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

C点における底層DOの年度最低値

(mg/L)



年度

※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度

データ: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター